令和８年度第１回川口市文化芸術審議会　会議録（案）

日　時　　令和８年１０月２２日（木）１０時～１２時
場　所　　川口市役所第二本庁舎６階　２６０１Ａ会議室
出席者　（委員）　原田会長　　齋藤副会長　　青木委員　　池田委員　　伊藤委員
　　宇田川委員　　川田委員　　野村委員　　横川委員
　　（事務局）若谷市民生活部長　　青木文化推進室長　　西村室長補佐　　髙柳主任
　　茂木主任　　日下主任
欠席者　（委員）　永井委員

議事録

１　開会
２　委嘱書交付
３　副市長挨拶
４　委員紹介
５　会長・副会長選任
６　会長・副会長挨拶
７　報告

・報告（1）令和７年度川口市立アートギャラリーの事業について
【説明】　（事務局より説明）
【質疑・意見】
（ 委 員 ） 実施状況の事業内訳に記載の共催展について、当初の予定では７件であったが、実施は６件であり、１件減った理由は。
（事務局）市美術家協会との共催展が例年では、年間２件あるが、出品状況等の都合により１件減ったため。
（ 会 長 ）昨年度と比較して入館者数が増えた印象がある。
（ 委 員 ）コロナ前が入館者数のピークだったと思うが、現在と比較してどうか。
（事務局）コロナ前の入館者数は年平均で約５万人であったのに対して、令和７年度の入館者数は５７，１４８人となっており、増加している。夏休み期間に予約不要でアート体験ができるオープンアトリエが好評であることが大きな要因と思われる。
（ 委 員 ）アンケートの回答率について、改善の余地があるのではないか。
（事務局）来館者にはアンケート用紙を配布するが、配布が十分にできなかった事業があるため、来館者には入口でアンケート配布し、回収に努めるよう指定管理者へ指導する。
（ 委 員 ）展覧会やワークショップの周知の方法はどのようなものか。
（事務局）毎月広報紙に掲載をしているほか、指定管理者のホームページ、SNS（インスタグラム、X）、２月に１回市内の小中学校へアトリアニュースを紙媒体で配布し、情報発信をしている。

【承認】　（全員承認）

・報告（2）令和８年度川口市立アートギャラリーの事業について

【説明】　（事務局より説明）

【質疑・意見】

（副会長）１０月の伝統芸能を扱う事業は具体的にどのようなものか。

（事務局）親子で能楽体験ができる事業であり、日本文化や伝統芸能に触れる事業がこれまでになかったことから新たに取り入れたものである。

（　委　員　）企画展は誰が企画しているのか。

（事務局）指定管理者の職員（学芸員）が協議し、作家等と交渉し、決定している。

（副会長）新春のアートなお正月展は年賀状を扱ったものであり、全国的に見ても珍しく、良い企画展である。

（　会　長　）９月のクルドの展示はどのようなものか。

（事務局）クルド人の生活の様子を写真で展示し、異国文化を知ってもらう展示をした。

（　会　長　）文化芸術を通じて、異文化理解を深めるのは良いことだと思う。

（　委　員　）１０月７日の障害のある方向けワークショップはどのようなものであったか。

（事務局）障害者福祉施設の方向けに、療養美術の講師を招きワークショップを行った。和太鼓のリズムに合わせて自由に絵を描くもので、参加者は伝統芸能とアートの融合を楽しんでおり好評であった。

（　委　員　）同じ貸し館事業でも、市主催と民間主催の事業は色分けするなどした方が分かりやすくて良いのでは。また、アトリアでは、静止している作品の展示だけではなく、動きや音を絡めた企画があれば面白いと思う。

（事務局）共催展は、美術家協会や教育局が主催しているものを扱っている。生き物絵画コンクールは公園緑地公社（第３セクター）が主催しているものであるため、貸しギャラリー扱いとなっているが、規模としては全市の小学生を対象としている。今後、分かりやすく表示をしたい。また、７月と８月に行った展示・ワークショップでは、木の人形を自由に動かして音を鳴らす企画を行った。

【承認】　（全員承認）

８　議事

・議事（１）川口市文化芸術基本計画における事業評価の実施について

【説明】　（事務局より説明）

【質疑・意見】

（　会　長　）前年度の事業評価の結果を踏まえて、これまでとどのように変化したか。

（事務局）各課での事業評価をもとに、文化推進室で集計したものを各課へフィードバックしている。人員や予算の要因を分析したうえで、継続・廃止・工夫して継続していくかを各課で判断してもらう。翌年度の事業評価や次期の文化芸術基本計画にも関わるものでもある。

（ 委 員 ）川口市立美術館で美術品以外にも例えばねぷた祭りの扇などを取り扱っていただければ、非常に興味深い。
（事務局）アトリアやリリア以外にも市で所管している施設があるため、可能な限り、他課を巻き込みながら多様な企画を進めていきたい。
（ 委 員 ）評価方法について、どのような部署に照会をしているのか。
（事務局）第２期の計画では、１４の部署で合計６３の事業の文化的側面に関する調査を行っている。計画の時点であらかじめ、文化的側面を持った事業をピックアップしており、各課での事業の自己評価を数値化してもらっている。
（ 委 員 ）各課へのフィードバックとは具体的にどのようなことをしているのか。
（事務局）最終的に文化推進室で各事業の文化的側面を評価し、作成した報告書を各課に送ってフィードバックしているが、各部署での事業は、それよりも優先される本来の目的があるため、あくまで文化的側面へのアドバイスに留まるものである。
（ 委 員 ）評価調書の作成は、文化推進室から事業の担当課に照会をかけ、各課の担当者が調書を作成し、文化推進室へ提出するという流れで合っているか。
（事務局）そのとおりである。
【承認】　（全員承認）

・議事（２）令和９年度川口市立アートギャラリーの事業予定について
【説明】　（事務局より説明）
【質疑・意見】
（ 委 員 ）美術館とアトリアの住み分けはどのようにしているのか。
（事務局）美術館とアトリアの代表企業が同じであるため、内部調整が密にできている。アトリアでは体験型の事業、美術館では展示・鑑賞事業を主に取り組んでいる。
（副会長）子どもたちにベーゴマは人気があるのか。
（事務局）文化財課の事業で、ベーゴマの大会を開催すると枠を超える申し込みがあり、市内では需要が高いものである。
（ 委 員 ）令和７年度のオープンアトリエは入場者数が多く、体験型のイベントとして、施設の役割を果たせている。
（ 委 員 ）令和８年度の障害者アートのイベントを充実させるのも良いのではないか。
（事務局）指定管理者から継続して行いたいという意向は確認できており、美術館においても障害者アートの展示を企画しているため、体験型のものと差別化を図り、実施したい。
（ 委 員 ）美術館との連携事業を行う場合、距離的に離れているイメージだが、西口から陸橋を通るルートの方が近く感じられて景観も良い。こうした案内を工夫して行えば、来館者が増え、相乗効果が生まれてよいのではないか。
（事務局）施設内で案内をすることは可能であるが、道路や公園となる場合は他課との調整が必要となるため、協議しながら進めたい。

（ 会 長 ）川口駅西口エリアは、駅前にあのような緑地のある大きな公園があること自体、世界的にも非常に稀有なものであり、素晴らしい環境である。ぜひ、この環境を活かした施策を進めていただきたい。

（ 委 員 ）スタンプラリー等の企画があれば興味を持ってもらえるのではないか。

【承認】　（全員承認）

9　閉会